



# 考古学から探る**学習**の起源

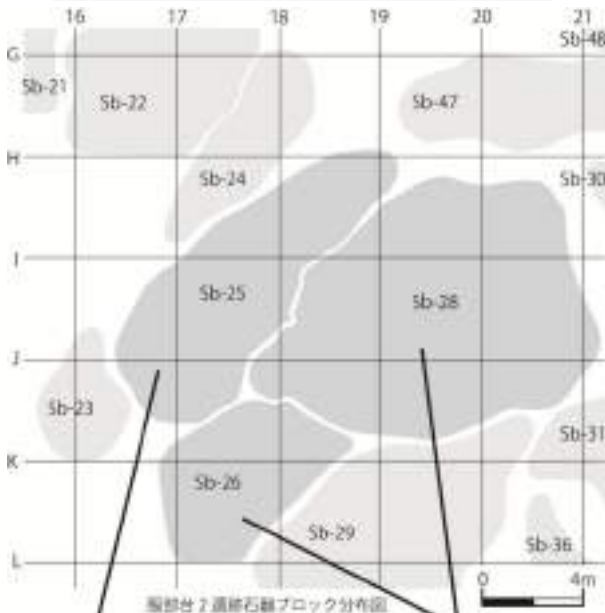
# 人類は文化をどのように**創造**し **継承**してきたのか？

開催日 10/31(土)

開催時間 10:30~12:00

今ある社会の姿は動かしがたい

色々な偶然の積み重なりでできている！



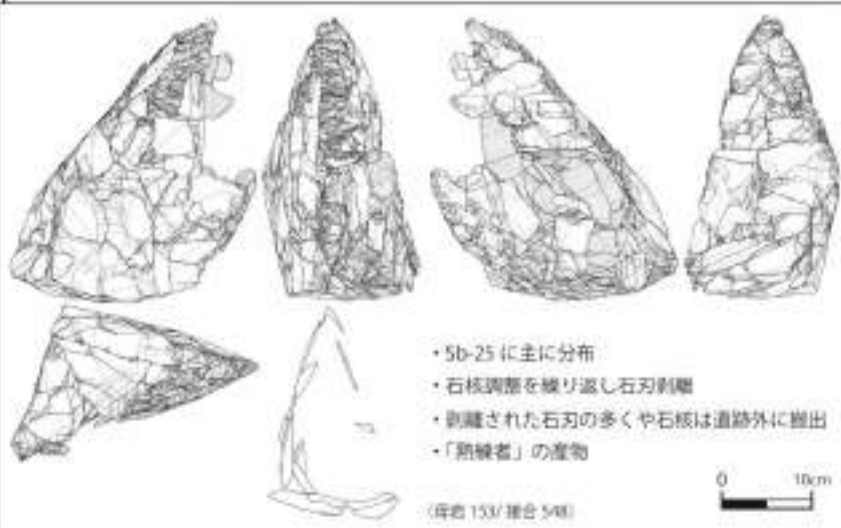
人類の文化は、創造と継承の連なりによって形成、存続してきたものです。それを支えてきたのが学習という営みです。人類の学習行動は、いつ頃から、どのように始まり、それが現在にどのようにつながってきたのでしょうか？この問いは、人類に特徴的なコミュニケーションや言語、社会とはどのようなものか、という問題にも密接に関連します。知の創造と継承がさまざまな困難に直面しているいま、あらためて人類による学習という営みの歴史を振り返り、進化の過程で「ありえた」別の可能性についても思い描いてみることは、大きな意味があることだと思います。

本講座では、私自身の取り組みを含め、この問いの解明にむけた国内外での実証的な研究の成果をご紹介します。



- ・Sb-26・28に主に分布
- ・石核調整は実施されず
- ・石核は遺跡内に廃棄
- ・「初心者」の産物

(母体 203/ 接合 714)



- ・Sb-25に主に分布
- ・石核調整を繰り返して石刃剥離
- ・剥離された石刃の多くや石核は遺跡外に搬出
- ・「熟練者」の産物

(母体 153/ 接合 548)

講師：高倉 純 (たかくら じゅん)  
(札幌国際大学人文学部国際教養学科教授)  
専門：考古学

北海道南西部の尻別川流域における旧石器時代遺跡の調査研究プロジェクトを2013年から継続している。また現在、文部科学省科学研究費学術変革領域研究 (A)「マテリアマインド：物心共創人類史学の構築」プロジェクトで、モノとヒトの認知との間の相互作用の研究に取り組んでいる。

著作に「更新世アジア北部における寒冷地適応」(『環境適応のホモ・サピエンス史』、東京大学出版会刊、2026年)、「白滝遺跡群」(『図説日本列島の歴史—第四紀の人と環境—』、朝倉書店刊、2026年)、「狩猟採集民の学習行動と文化伝達」(『パレオアジア新人文化の形成—考古学・人類学からのアプローチ—』、新泉社刊、2025年)がある。

参加対象：一般の方(高校生以上の方)

開講場所：本学教室

※開催場所等は締切日以降、メールにて通知します。

講座参加料：お一人1,000円

定員：50名程度

\*お申込みはこちらから ↓ →



<https://forms.cloud.microsoft/r/JHF6NA2gf1>

申込締切日 10/25(日)まで